



消防大学校だより

消防団活性化推進コース（第3回）の実施

消防団活性化推進コースは平成27年度新設の実務講習で、今回が3回目の開催となりました。受講者は消防団の教育訓練業務に携わる都道府県・市町村の一般行政職員、消防本部及び消防学校の担当職員となっており、平成29年12月11日～15日の5日間、これらの担当者が共に学ぶ場となりました。

講義として、消防庁の消防団専門官からは、消防団の現状と災害時の活動事例のほか、平成25年に施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を踏まえた加入促進等の様々な課題と対策、処遇改善、財政措置、安全管理等について説明がありました。

また、他の講師からは具体的な団活動・教育訓練として、地域防災における消防団の役割、消防団の教育訓練の実践、女性消防団員の存在が団活動に柔軟性をもたらす消防団の可能性を広げること等を学びました。

特に、現役消防団長として活躍されている講師からは、加入促進に対する取組として、常備消防と協力しながら行う小学校への出前講座や分団による地域広報誌の発行、地域活動への参加と連携活動など沢山の活動が紹介され、更に消防団が主体となってPRしている状況が紹介されました。刺激を受けた受講生からは「常備消防と消防団が互いに歩み寄り、意見を聞き入れ、アイデアを出し合うことが重要であることを改めて学びました。」との感想が寄せられています。

これらの座学以外に、図上訓練や指揮シミュレーション訓練も実施し、これを通じて災害時の消防団の動きや消防本部との活動連携について理解を深めました。加えて、課題研究においては、各自で持ち寄った課題について講義内容を踏まえつつ班ごとに議論し、取りまとめ、発表しました。発表に当たっては、他の班の意見を聞くことにより様々な点から思考する機会となりました。

コース修了後、受講生からは「この5日間で得た知識と経験を教育訓練の場で消防団員に還元し、消防団組織を活性化させて推進していきたい。」「常備消防と消防団は、いざ災害が発生すると車の両輪のように連携して活動を行います。特に大規模な災害が発生したときには、想定外が起こらないように、普段からあらゆる災害を想定した訓練を実施する必要があることを認識しました。」とのコメントが寄せられています。

今後は本コースで獲得した知識や思いを糧に、消防団活性化のための業務に積極的に取り組んでいただくことを期待しています。



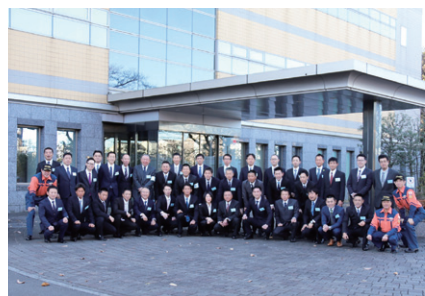
指揮シミュレーション訓練



課題研究



課題研究発表



受講生の皆さん

問い合わせ先

消防大学校教務部 宮崎
TEL: 0422-46-1712



消防団長科第71期、72期の実施

消防大学校では、総合教育において、消防団の上級幹部に対し、その職に必要な知識及び能力を総合的に習得させることを目的に「消防団長科」を設置しています。

本年度の消防団長科は5日間（教育時間30時間）にわたり、近年の消防団情勢や災害事例に関する講義のほか、校外研修や図上訓練等を実施し、第71期（8月28日～9月1日）の35名、第72期（12月4日～8日）の29名、計64名（うち女性1名）全員が卒業しました。

校外研修では、消防庁長官講話を始め、消防庁幹部による最新の消防団情勢に関する講義を受けたほか、日本消防協会の秋本会長による消防団幹部としてのあり方についてのお話を伺い、あらためて地域が求める消防団の姿や自らの職責について認識したところです。

また訓練として実施した指揮シミュレーションでは、消防団幹部が知るべき常備消防との連携や団員の安全管理、そして災害現場全体を見ることの重要性を理解し、更に熊本地震で被災した西原村の馬場団長の講義からは、事例を自らの消防団に置き換えることで、その対応策や今後の課題について研究しました。

研修を終えた学生からは「これからの消防団の進むべき道について学ぶことができた。」「消防団幹部としての姿を見直すことができた。」等の意見が多く挙げられ、更には学生相互の情報交換により、学生全員から「大いに相互啓発の場になった。」との回答を得ました。

今後、消防大学校で修得した知識・技術・情熱をそれぞれの地域で発揮され、地域住民の負託に応えるとともに、消防団の発展に向けて大いに活躍されることを期待しています。



秋本日本消防協会会長による会長室での説明



指揮シミュレーション訓練の様子



稲山消防庁長官による講話



卒業式・卒業証書授与

問い合わせ先

消防大学校教務部 大野
TEL: 0422-46-1712